

第2回新・環境首都とくしま憲章（仮称）策定委員会 議事概要

1 日 時

平成26年7月29日（月） 午前10時から午前11時30分まで

2 場 所

県庁11階 1104会議室

3 出席者

【委員】委員9名中6名出席

近藤光男委員長，津川なち子副委員長，谷口順一委員，青木正繁委員，
渡辺雅子委員，松田和代委員

【事務局】

割石環境首都課長，住田課長補佐，山川主任主事

4 会議次第

(1)開会

(2)あいさつ

(3)議題

i)憲章骨子案について

ii)その他

(4)閉会

5 議事概要

策定委員会委員から出た意見等は次のとおりであった。

(1)本文について

ア 分類の方法について

●徳島の自然の良さを「伝える」という分類を作成し，取組項目を追加してはどうか。

●現行憲章に比べると，行動別で見た方が分かりやすく，親しみやすいのでよいのでは。

●現行の憲章を用いて授業を行ったが，分野別ではなかなか伝えづらく，学生達も関心が薄れてしまったので，この分類方法はいいと思う。

また，「伝える」という項目を加え，さらに，並べ方についても広がりが見える方が，この憲章を見て行動に移す際により効果的ではないか。

自分だけでないという意識（他者にも伝えていく）ができ，よいのでは。

●「捨てる，拾う」という分類を「捨てる」という文言だけにしておくか。

例えば「地域社会のエコ活動」はごみ拾いだけではないので，別の分類に分けて

かどうか。（「変える」、「伝える」 等）

イ 追加すべき項目，除外（統合）すべき項目

●「伝える」の項目として，お年寄りや地域社会について（お年寄りの経験を次の世代に伝えていこうという「縦のつながり」と地域社会で広げていくエコ活動等の「横のつながり」）の項目を追加してはどうか。

●徳島の自然に対して愛着，誇りを持つことが地域の自然を守ることに繋がるのでは。

キッズバージョンでも，「知る」と「伝える」こと両方の項目が入れば，学習でも効果的に使用できる。

●「変える」項目の「合併処理浄化槽の導入」は唐突な感じがする。

●「もったいない」精神の項目は，表現を修正の上，「伝える」の分類に追加してはどうか。

●「身近な緑を増やし」という項目は「親しむ」の分類に追加してはどうか。

ウ 文言の修正について

●「伝統料理」は分かりづらく，「郷土料理」の方が分かりやすいのでは。

●「郷土料理」とすると，そもそも郷土料理が何かという疑問が出てくる。

●「ものを買いかえる前に～」の項目の冒頭に「本当に必要な物を買ひ」という文言を追加して欲しい。

●できるだけ具体的な，絵が浮かぶような文言にするべき。

(2)前文について

●現行憲章の前文は悲観的な文章であったが，骨子案は前向きな言葉で綴られているので良い。

●県民の皆さんが「これは自分達でやっていくべきことだ」と認識してくれるような前文がよい。「自分たちの問題として捉え，将来の世代のために取り組む」ということが分かるような表題をつけてはどうか。

●「徳島だけで解決できない問題」という文言を除外し，「一人ひとりの力は小さいけど，皆で力を合わせてやっていこう」という表現を入れてはどうか。

●前文の内容と本文の具体的な行動指針の間のつながりが分かるようなもの（本文取り組みの冒頭に入るような文章）があればよいのでは。

(3)キッズバージョンについて

●体験（楽しみながら環境について学ぶ）を盛り込んだ項目も必要でないか。現在は行動指針のみで6項目掲げられているが，学ぶ，伝えるという項目も重要で

あると考える。

●動物をたいせつにしようというより、具体的な行動（触れる 等）を盛り込んだ方が分かりやすい。

●子ども達が自分から伝える人になろうという意識を持つことはとても効果がある。（例えば学校で学んだことを家庭で伝えるという役目を果たせる。）

●キッズバージョン項目で、頭文字をとると何かのことばになるような「語呂合わせ」を考えると、子どもが取り組みやすいのでは。語呂合わせをつくると、「合言葉」として覚えやすいのでは。

●「ごみはどこにでもすてない」の表現がきついで除外してはどうか。

●「花や木、動物をたいせつにしよう。」は「たいせつにしよう。」が重複するので、「心を込めて育てよう」というふうに変更してどうか。

●給食、特に野菜の食べ残しが多いのが問題となっている。「体のことを考えて」という表現があってもいいかもしれない。